

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行 瑞應寺

電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺

印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語【十八】

後堂 門原 信典

三教老人の序⑦

「万象之中木版の響」

人人をして、簾を巻き、
板を聞き、指を豎て、脚触
くの際に大事を了却せし
む。文字何ぞ有らんや。

雪竇重顕禪師が祖師方の
修行の足跡を記された百則
の頌古（詩）を圓悟克勤禪
師が講義され「碧巖録」が
完成しましたが、その高弟
である大慧宗杲禪師は、修
行者たちが「碧巖録」の言
葉や文字にのみ囚われ自分
勝手に解釈して本当の修行
をしなくなる事を憂い、出
版された「碧巖録」や、そ

の版本まで焼き尽くされ
ました。

その後、辛うじて残った
ものを採集集めて「碧巖録」
は復刻されました。その復
刻された「碧巖録」の序文
の一つ、三教老人の序を皆
様と一緒に読んでいます。

大慧禪師が焼き尽くされ
たのは、修行者が安易に執
着する「文字」や「言葉」で
あって「碧巖録」に記され
た多くの修行者の足跡では
ありません。

三教老人は、先ず四人の
祖師方の修行からそこを学
んで欲しいとの思いで、長

慶慧稜禪師「巻簾」のお話
を示され、今回は径山涂毒
禪師の「聞版」のお話です。

「径山涂毒禪師塔銘」に
「時豫章雲巖游禪師号典牛、
声震江湖、師往投之、道由
雲居、風雪塞路、坐閱四十
二日午初、版声鏗然、豁爾
大悟」と記されています。

「木版がコーンと響きて大
悟する」

「時に豫章雲巖游禪師、号
は典牛」

大漢和辞典を開いたら、
豫章の項目は沢山あり、十
番目に江西省の古名とあり
ました。雲巖山が江西省に
あるので豫章は地名です。

雲巖山に住職された游禪
師。この雲巖游禪師は、禪
宗の系図を見ますと臨済義
玄禪師の系統です。

臨済義玄禪師から六代経
て黄龍慧南・雲庵克文・湛
堂文準・典牛天游・涂毒智
策とあり、雲巖山の典牛天
游禪師という事になりま

す。禪宗では祖師方のお名
前を全部表記するのは失
礼に当たるので三文字目
を抜くことがあります。ま
た黄龍慧南禪師から分派
して七代経て栄西禪師と
なります。

「声は江湖に震う」

江湖は江西省と湖南省と
一般的に言われていますが、

三江五湖・三本の川と五つ
の湖、或いは揚子江と洞庭湖
の略で、世間とか世の中、そし
て天下と言う意味です。雲
巖山の天游禪師の名声は
天下に知られています。

「師往きて之に投ず」

径山の涂毒智策禪師は天
游禪師の道場に自らの身心
を投げ入れました。

径山は浙江省にあり、山麓
に禅門の大道場興聖萬壽寺
があり大慧宗杲禪師も住持
されています。

「道は雲居に由る」

雲居山も江西省にあり、
険峻で頂上には常に雲が
漂っているのです、この名前

があるのですが、そこを経
由して天游禪師の下に弟子
入りされます。

「風雪路を塞ぐ」

慧可大師が達磨大師に弟
子入りされる時、腰まで積
もる雪の中に一晚中立ち
尽くし、とうとう自らの左
臂を断ち切つて達磨大師
に差し出され入門が許さ
れました。同じように天游
禪師に参ずるまでの困難
な道行き、また涂毒禪師の
求道心の強さをも表現さ
れています。

「坐して閱すること四十二
日の午初」

検閲の閲です。四十二日
間坐禅して自己を点検され
た。その昼過ぎ。

「版声鏗然、豁爾大悟す」

鏗は、琴の音、うつ、つく、
という意味です。「鏗然」は
高く澄んだ音、木版の音が
パコツという音ではなく
コーンというような透き通
る音の表現。その木版の音
を聞かれて「佛道」を悟ら

れました。

「豁爾」はひろびろと開けた。そして、眠りや酔い、惑いから目覚めるという意味があります。「豁然大悟」も同じです。

ここ瑞應寺の僧堂版がまた何ともいえない柔らかい澄んだ音がします。私が初めて参禅に來させて頂いた時に、身心が透き通るような思いで聞かせていただきましたが、もちろん私にはそこまで。

しかし塗毒禪師は、この木版の響きに包まれたのです。それはただの響きではありません。木版を打つ人、木版の音、木版を聞かれた塗毒禪師。この三つが揃わなければ「み佛様の響き」にはならなかったのです。そして、この木版の響きこそは、今自分だけに聞こえる音ではなく、三世十方（※）を通貫する天地一杯の響きだったのです。

み佛様の世界の中だからこそ、ただの木の板の響き

がみ佛様の声となって聞こえ、坐閱している本来の自己を信じる事が出来たのです。

【聞こえない音が聞こえた鐘撞き堂】

二十年以上前の事です。が、鳥取のお寺の檀家さんに聲啞の方がいらつしゃいます。私はどうにかしてお経を読んでいただく事は出来なかつたかと思つて手話サークルに通い、少し手話を習いました。法事の時にその方の横に健常者の方に座してもらい私の声に合わせて指で文字をなぞつて一緒に読んでいただくことが出来ました。

手話サークルで知り合つた聲啞の方々が坐禅に来てくれた事もあります。その中の塗装業をされているMさんにお寺の仕事を依頼しました。夕方の鐘撞きをするので、Mさんは鐘撞きをするのですが、Mさんは鐘撞き堂に背を向けて、高台にあるお寺からの景色を眺めて

いました。第一声を鳴らした途端、耳を塞ぐ仕草をしてこちらを振り向かれます。鐘の音が聞こえたのです。どういう事でしよう。

Mさんは「身体で分かつた。身体に鐘の響きが伝わつた」と表現されました。

私達は音というものは耳から聞こえると思ひ込んでいますが、そうではありません。生命の働きとして身体全体で聞かれたのです。その微妙な音の響きがわかるのです。私達の感覚は目だけ耳だけの独立した働きではなく、身体全体があつてこそその働きであるし、宇宙全体、天地一杯の働きがあつて、この身体の働きもあります。三教老人が何故ここで径山禪師の修行を紹介されたのでしょうか？

長慶慧稜禪師は僧堂の簾が巻き上がるのを見て「万象之中独露身」と説かれました。ここでは「万象之中木版の響」です。

三教老人は「修行無くして文字や言葉だけでは、この三世十方を貫く生命の働きはわからないぞ」と示されたのです。

径山塗毒禪師の詳しい事はほとんどわかりませんでした。しかしこうして読んでいきますと、昔も今も、記録にも残らず、誰に知ら

れることも無く、ただ一人黙々と只管打坐に生涯を尽し、誓願に生きる坐禅人の存在に思いを巡らさざるを得ません。その誓願に導かれ私達は歩んでいます。

(続く)

※過去現在未來の三世・東西南北四維(四方八方)上下の十方。

テレホン法話(〇八九七 四一・〇〇三三)

禪のたより



◆助け合いの心

二月になりました。私が住職をしているお寺は山の中にあり、二月ともなれば花が咲きはじめ、春の訪れを実感できる場所にあります。大変自然が豊かなところなのですが、その分落葉や雑草の繁茂に悩まされています。

当然、いつも掃除をす

ることが私の日課となります。私ひとりでは掃除をするの大変なのですが、お墓参りに来られる檀家さんの中には自分の墓地だけではなく、通路などのお墓の周辺を掃除して下さる方がおられます。こちらから掃除してくださると協力をお願いをしたことはありません。ですが昔からの習慣で掃除してくだ

さっているようです。強い風が吹いた翌日には来られて、いつも竹箒で自分の墓地だけではなく、周囲の通路なども掃除して帰られています。

ある時、いつもはその方が掃除してくださる通路を、近くの掃除のついでに、その方が来られる前に掃除しておりました。しばらくした後はその方が来られて、「和尚さん、掃除してくれてありがとう」とわざわざお礼を言われました。私はお寺の敷地内のことですから自分が掃除するのは当たり前のことと思っておりますので、恐縮してしまいました。

このように、お檀家様のなかには、自分の墓地以外の場所の掃除をして下さる方がおられます。またほかに、自身の墓地ではない、お寺の関係者の墓に自発的

に檜などのお花をお供えしてくださるような方もおられます。このような行為は、もちろん労力的に助かりますし、何よりもその親切な気持ちが寺院の住職として大変な励みになっています。

いつ頃からこのような習慣ができたのか、これまでの住職やご先祖様から言われてきているのか、それともご自身がはじめられたことなのか分からないのですが、昨今の自分だけがよければそれでよいという風潮とは異なり、大変ありがたい行為であると感謝しています。このような善行を途切れさせることなく次の世代にも引き継ぎ、後の人たちのお手本となっていただきたいものです。

瑞應寺専門僧堂侍者 村上 徳樹

令和六年二月一日〜十日

年頭所懐

佛國莊嚴瑞應春
龍天擁護轉機輪
萬邦和樂百千億
福聚無窮清淨身

堂長 村上徳存

新年書懷

元正啓祚曉鐘聲
端坐僧堂淑氣清
佛國衆中和合行
同修互助弟兄情

副堂 山本太一

春日遊禪寺

安居佛國瑞光中
銀杏巍巍聳大穹
独聽鐘聲幽遠境
行雲流水坐春風

殿行 飯島慈皓

新春所感

掛搭叢林日月遷
衆中辨道最良緣
清新春意滿天地
衲子安心由坐禪

鐘司 梶原陸生

春日偶感

鶯聲一囀喚春來
屋裏花花為孰開
諸法空輪如夢幻
方知所著海徘徊

殿行 井口聖人

歲晚所懷

歲晚寒風梵苑巡
燈籠舞宙慰凍身
禪僧転読大般若
覺意好斯通佛神

副堂 赤松義晃

甲辰新年

瑞應甲辰迎艷陽
太平祈禱鼓音昂
追懷旧歲多災難
佛國禪機勵自彊

副堂 小松多聞

詩偈





涅槃摂心

二月五日(月)より五日間、恒例涅槃摂心を修行。一山竜象衆、釈尊報恩の只管打坐。会中は金岡山主(正法眼蔵自証三昧)、門原後堂(従容録)、吉松維那(正法眼蔵八大人覺)、古川副悦(正法眼蔵重雲堂式)と法を得る。供養点心菓子等、会中の施主に深謝。令和六年涅槃摂心供養施主

当山 総代会 殿
当山 梅花講 殿
今治市 禅興寺 殿
愛知県 森川法雲 殿
愛知県 極楽寺 殿
愛知県 宝泉寺 殿
岡山県 東林寺 殿
岡山県 長福寺 殿
広島県 東光寺 殿
鳥取県 玉泉寺 殿
岡山県 中興寺 殿
愛媛県 義安寺 殿
山口県 吸江寺 殿
広島県 浄光寺 殿

(順不同)

(他、野菜、果物、菓子等、多数頂戴。)

冬安居解制・涅槃会

釈尊入滅の聖日、涅槃会と併せ冬安居が解制。首座飯島慈皓士以下一山諸兄弟、乳水の如く和合し道業を一興した。

二月十四日(水)、土地堂念誦(吉松維那)、涅槃会連夜誦經(阿部監事)十五日(木)、曉天、祝祷朝課、鎮守誦經に次いで涅槃会献粥誦經(門原後堂)、小参・人事行札、規範に準じ厳修。午時、金岡山主のもと涅槃会正當誦經。



小 参

金毘羅初大祭

二月十九日(月)・二十一日(水)は当山鎮守金毘羅大権現初大祭。午前十一時に上殿して山門鎮静、修道無難を祈願。

二月の日程

一日 祝祷
四日 日曜参禅会
五日 涅槃摂心(九日迄)
十四日 土地堂念誦
涅槃会連夜誦經
十五日 祝祷・小参・人事行札
涅槃会献粥誦經
涅槃会正當誦經
略布薩
十八日 観音講・勉強会
廿九日 略布薩

三月の予定

一日 祝祷
十二日 参玄会(十四日迄)
十五日 祝祷
常楽会(おねはん)
略布薩
十八日 観音講・勉強会
廿日 萬霊塔供養
卅一日 略布薩



鐘 声

瑞應寺に入室して九ヶ月が経ちました。

冬制中が終わり僧堂生活も少し落ちついてきました。しかし今後も初心を忘れず励んでいく所存です。

まだ安居一年目ということもあり初めての冬制中は不安と苦しい日々でした。しかしその分毎日を一心に過ごすことができました。思い返すと僧侶人間として成長できた期間でした。

このことから何事にも一生懸命取り組み自分が自身の成長につながることを改めて痛感しました。

この気持ちを自分の心に留め頑張っていきます。

副堂 多聞

瑞應寺専門僧堂

安居者募集

安居を希望される方には、掛塔志願書を送付致しますので、左記にご連絡下さい。

792-0835 愛媛県新居浜市山根町八一
電話(〇八九七)四一・六五六三
FAX(〇八九七)四〇・三一・二七



僧堂内朝課